

## 風 録

若いころには気付かず、今読み返すと「そうだったのか」と得心する本がある。最近では「なんとなく、クリスタル」

がその一冊だ▼長野県知事や国会議員を務めた田中康夫さんのデビュー小説。一九八〇(昭和五十五)年に発表された時、斬新なスタイルが話題を呼び、爆発的に売れた▼主人公はモデルもしている女子大生。当時最新のファッションやブランド、レストラン、音楽の名前が次々に出てきて、一つ一つに本文とは別に注が付いている。その数は四百四十二個。読後は、流行を追い掛ける若者の軽薄さばかりが印象に残った▼それから三十三年。昨年十一月に新装版が発行された。懐かしさから買い求め、読み直して驚いた。おしゃれで、皮肉の効いた注の後、唐突に「人口問題審議会『出生力動向に関する特別委員会報告』」と「五十五年版厚生白書」が出てくる▼そこには、将来人口の減少と高齢化の加速が、淡々と数字で示されていた。「なんくり」はバブル景気の幕開けを予感させる『浮かれた小説』でなく、いざれ必ず来る時代への警鐘だった、と今になつて分かった▼昨年末に発表された経済指標(十一月)では、雇用、消費の改善が鮮明になった。県内の求人も増え、景気回復は地方に及ぶ。「縮み」から「伸び」へ。プチゼいたくを楽しむのはいいが、忍び寄る「今そこにある危機」にしっかり目を向けたい。